

C-SIGMA VI 参加報告

2015年12月15日



葛岡 成樹



© C-SIGMA

目次

概要 :	1
感想 :	1
主要講演 :	2
ちょっと一言	2

概要 :

C-SIGMA は Collaboration in Space for International Global Maritime Awareness の略であり、衛星を利用した海洋監視データをグローバルに交換し、その情報の利用について協力しようという活動である。本活動は元米海軍/沿岸警備隊の Guy Thomas 氏が主導し、アイルランドの National Space Center に C-SIGMA Center を設置して活動を行っている。

C-SIGMA では 2011 年から毎年衛星を利用した海洋監視に係るワークショップを開催しており、去年の東京に引き続き、今年で第 6 回目のワークショップが英国ロンドンで 2015 年 12 月 7 日～9 日に開催された。

今回の第 6 回ワークショップには欧州を中心に約 120 名が登録し、会場には 100 名程度が常時出席していた。日本からは、海上保安庁関連団体から 2 名(ロ

ンドンおよびワシントン DC 駐在)、JAXA から 1 名、その他民間から 4 名の計 7 名が出席した。このワークショップでは欧米以外では日本の大量参加が目立つ程度であり、中国を始め宇宙開発途上国からの参加は見当たらなかった。

感想 :

沿岸および衛星で受信した船舶自動識別装置 (AIS) データと合成開口レーダ (SAR) 画像を重ね合わせて海洋監視、とくに不審船の監視に用いるという技術は欧米ですでに確立し、実用に供されている。このため、2 年前のワークショップから既に「困難な点は技術の問題ではなく、文化あるいは管理の問題だ。」という発表が相次いでいた。

衛星を用いた海洋監視が各地で運用されている中、今年のワークショップは今までのものからの転換点に差し掛かってきたのではないだろうか。全般を通

して感じた以下 3 つの主要な点を報告する。

- ① 組織間データ共有の限界認識
- ② AIS データからの付加価値情報抽出
- ③ 各国の海洋監視技術の産業育成

主要講演：

ちょっと一言

今回の 3 日目、見学会としてロンドン郊外のグリニッジにある海洋博物館を訪問した。英国はさすが海洋王国。過去から現在までの船舶・海洋進出の歴史がうまくまとめてあった。

アジアへの進出では、東インド会社といった世界史の時間で習った会社名が出てくるとともに、「Anglo-Chinese War」という単語があった。中国が貿易に障壁を設けていたので、戦争になったとの説明である。その貿易品の主体がアヘンであるとの説明は隅に小さくしか書いていない。アヘン戦争という用語は英国側では使わないことを知った。



以上

お問い合わせは：



<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

E-mail: shigeki-kuzuoka@sat-biznet.com

TEL: 080-2052-1348